

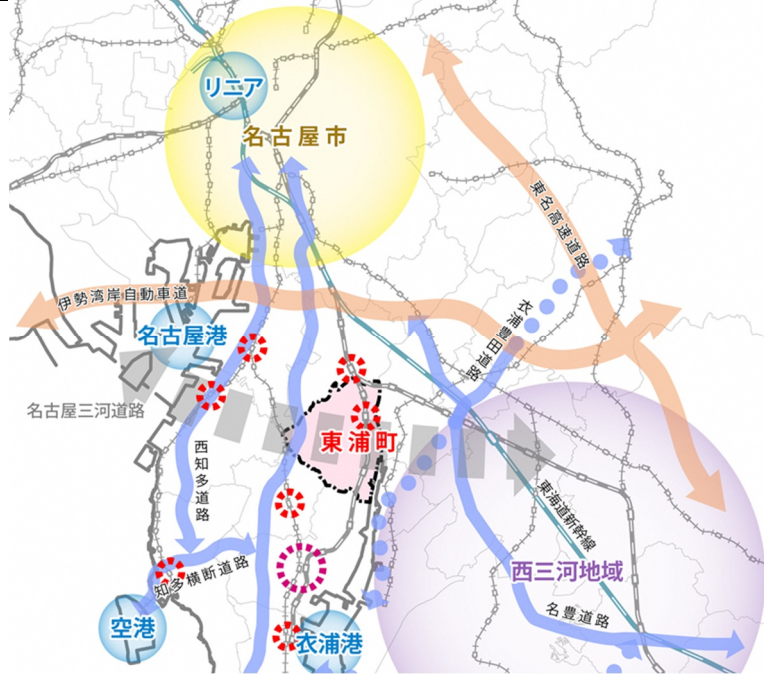
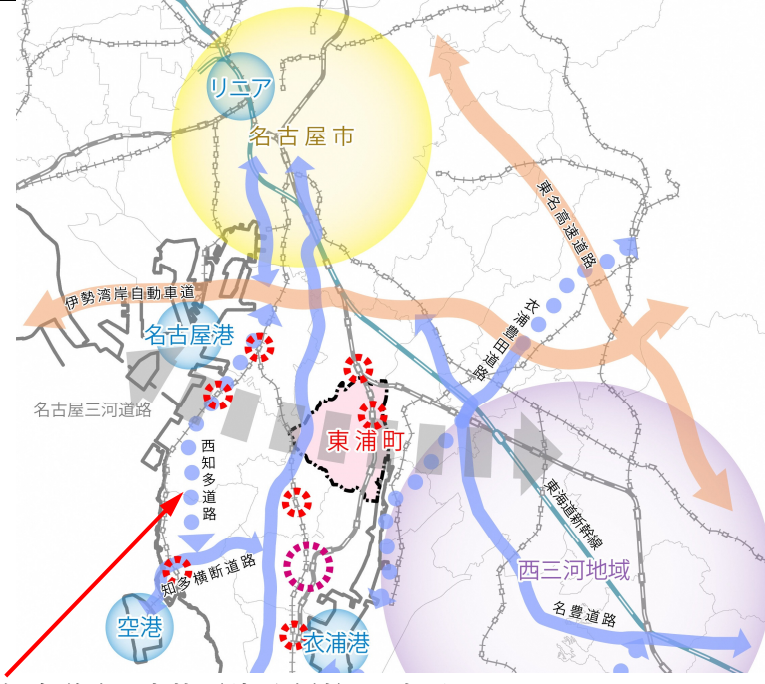
パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P2	2011年3月に策定した東浦町都市計画マスタープラン（以下、「前計画」という。）から約10年が経過しようとする中、全国的には人口減少、少子高齢化が本格化し、国においては、都市再生特別措置法の改正による立地適正化計画、まち・ひと・しごと創生法によるまち・ひと・しごと創生創生総合戦略が創設され、社会情勢の変化に合った法改正が行われてきました。	2011年3月に策定した東浦町都市計画マスタープラン（以下、「前計画」という。）から約10年が経過しようとする中、全国的には人口減少、少子高齢化が本格化し、国においては、都市再生特別措置法の改正による立地適正化計画、まち・ひと・しごと創生法によるまち・ひと・しごと創生 創生 総合戦略が創設され、社会情勢の変化に合った法改正が行われてきました。
P4	<u>「現況把握」</u> 上位・関連計画における都市づくりの方針や、人口・産業・土地利用・都市施設・災害特性等の都市づくりに関する現況を整理しました。これに加えて、公共交通路線や医療・福祉・商業等の都市機能の配置と人口分布から都市構造のコンパクトさについての評価を行いました。	<u>「現況把握」</u> 上位・関連計画における都市づくりの方針や、人口・産業・土地利用・都市施設・災害特性等の都市づくりに関する現況を整理しました。これに加えて、公共交通路線や医療・福祉・商業等の都市機能の配置と、人口分布から都市構造のコンパクトさについての評価を行いました。
P6	本町はこれまでは人口増加の傾向にありましたが、平成22年をピークに人口減少の局面に入り、その後も人口減少が進むと予測されています	これまで本町の人口は 増加の傾向にありましたが、平成22年をピークに人口減少の局面に入り、その後も人口減少が進むと予測されています。
P7	そのためには、JR緒川駅をはじめとした各駅周辺における拠点性の向上、公共交通や徒歩による移動範囲への生活サービス施設の確保や居住の誘導が必要です。	そのためには、JR緒川駅をはじめとした各駅周辺における拠点性の向上、公共交通や徒歩による移動範囲への生活 利便 施設の確保や居住の誘導が必要です。
P9	公共交通へのアクセスについては、約9割以上の住民が徒歩圏内で可能ですが、バスについては運行本数が少なく、現状では住民の移動手段として利便性が高いとは言えません。	公共交通へのアクセスについては、約9割以上の住民が徒歩圏内 で 可能 ですが、バスについては運行本数が少なく、現状では住民の移動手段として利便性が高いとは言えません。
P10	今後は、名古屋三河道路により工場等の進出も期待されることから、さらなる地域経済の活性化に向けて、産業用地の確保が必要です。	今後は、 名古屋港から三河地域を結ぶ 名古屋三河道路の計画が進むことにより、工場等の進出も期待されることから、さらなる地域経済の活性化に向けて、産業用地の確保が必要です。

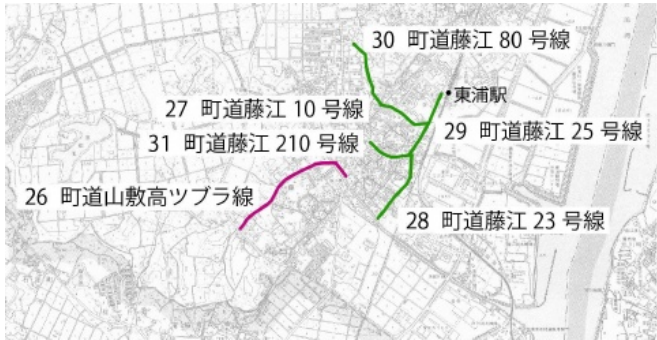
パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P10	これらを踏まえた、商業機能の適切な誘導を図るほか、住宅地の徒歩圏においては、空き家・空き店舗などを活用した身近な商業機能（小規模な商店等）の立地を促すことも考えられます。	これらを踏まえた、 商業機能 の適切な誘導を図るほか、住宅地の徒歩圏においては、空き家・空き店舗などを活用した身近な商業機能（小規模な商店等）の立地を促すことも考えられます。
P13	■ まちづくりの考え方（第 6 次東浦町総合計画より）	■ 東浦町 のまちづくりの考え方（第 6 次東浦町総合計画より）
P14	・平成 27 年からは人口減少の局面に入り、その後も人口減少が進む	・平成 22 年からは人口減少の局面に入り、その後も人口減少が進む
P14	産業	産業/ 農業 / 工業 / 商業 ※3 つに分けた項目を追加
P15	また、その他の幹線道路の整備促進や生活道路における歩行者環境の安全性向上により、円滑かつ安全な交通体系を構築します。また、町運行バスなどの公共交通の利用しやすさの向上により、子ども、高齢者など誰もが使いやすい公共交通の充実を図ります。	また、その他の幹線道路の整備促進や生活道路における歩行者環境の安全性向上により、円滑かつ安全な交通体系を構築します。 さらに 、町運行バスなどの公共交通の利用しやすさの向上により、子ども、高齢者など誰もが使いやすい公共交通の充実を図ります。
P15	東浦知多 IC やあいち健康の森周辺などの拠点を活用し、企業誘致に取り組むとともに、新たな産業用地の確保や、既存工業地の操業環境の維持・向上を図ります。	東浦知多 IC やあいち健康の森周辺などの拠点を活用し、企業誘致に取り組む と ともに、新たな産業用地の確保や、既存工業地の操業環境の維持・向上を図ります。
P18	将来産業系市街地の規模の算出は、本計画の目標年次である 2030 年度の町内総生産に対して行います。今後も都市の活力を高めていくため、本町の産業の成長に対応するとともに、広域的な交通便利性を活かした産業集積を進めていく必要があります。しかし、既存の産業系市街地内には、まとまった未利用地がないことから、新たな産業系市街地の規模を算出する必要があります。	将来産業系市街地の規模の算出は、本計画の目標年次である 2030 年度の町内総生産に対して行います。今後も都市の活力を高めていくため、本町の産業の成長に対応するとともに、広域的な交通便利性を活かした産業集積を進めていく必要があります。しかし、既存の産業系市街地内には、まとまった未利用地がないことから、新たな産業系市街地を 確保することとします 。

パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P19		 ※西知多道路を点状（計画路線）に変更
P24 ～25	(省略)	※写真 6 点を挿入
P27	都市計画の目標の達成に向けて、将来都市構造を踏まえた上で、各分野の都市整備の方針を設定します。	都市 づくり の目標の達成に向けて、将来都市構造を踏まえた上で、各分野の都市整備の方針を設定します。
P28	その他の駅周辺については、地域住民の生活に必要な生活関連施設が集積し、日常生活の拠点となる土地利用を図ります。	その他の駅周辺については、地域住民の生活に必要な生活 利便 施設が集積し、日常生活の拠点となる土地利用を図ります。
P28	農業系・樹林系土地利用について、本町に広がる農地は農業生産の場としてだけではなく生物多様性の保全、防災、景観形成など多面的な役割を有する貴重な資源であることから、都市的な土地利用との調和を図りながら保全していきます。また、丘陵部を中心に…	農業系・樹林系土地利用について は 、本町に広がる農地 が 農業生産の場としてだけではなく、生物多様性の保全、防災、景観形成など多面的な機能を有する貴重な資源であることから、都市的な土地利用との調和を図りながら保全していきます。また、丘陵部を中心に…

パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P29	緒川天白地区については市街化区域内の未利用地の有効利用を図り、地域の特性に応じた生活環境の整備を図ります。	緒川天白地区については、市街化区域内の未利用地の有効利用を図り、地域の特性に応じた生活環境の整備を図ります。
P29	JR 尾張森岡駅と JR 緒川駅との間の市街化区域と隣接する地域、(都)名古屋半田線と知多半島道路、(都)知多刈谷線に囲まれる地域は、新たな住民の受け皿となる「住宅検討地」として位置付けます。	JR 尾張森岡駅と JR 緒川駅との間の市街化区域と隣接する地域、(都)名古屋半田線と知多半島道路、(都)知多刈谷線に囲まれる地域などは、新たな住民の受け皿となる「住宅検討地」として位置付けます。
P30	商業・観光交流地は地域住民の日常生活の利便性の向上に配慮し、各地域の特性に応じて必要な都市機能の拡充を図ります。	商業・観光交流地は、地域住民の日常生活の利便性の向上に配慮し、各地域の特性に応じて必要な都市機能の拡充を図ります。
P30	東浦森岡工業団地・東浦工業団地・南栄町地区・東浦石浜工業団地、緒川上舟木周辺は、…	東浦森岡工業団地・東浦工業団地・南栄町地区・東浦石浜工業団地、緒川上舟木周辺は、…
P35	なお、東西方向の交通は、県道の東浦名古屋線に交通が集中していますが、…	なお、東西方向の交通は、県道の東浦名古屋線に交通が集中していますが、…
P38	(省略)	※拡幅計画一覧における全ての道路名称の前に、「町道」を追加
P39	2 森岡 5 号線	2 町道森岡 54 号線 ※道路拡幅計画図における全ての道路名称の前に、「町道」を追加
P39	※町道藤江25号線（町道藤江210号線までの区間） 6 m 	9 m 

パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P41	住民にとって身近な公共交通である町運行バス「う・ら・ら」は、新規路線や乗継に便利なダイヤの検討及びコンパクトなまちの各拠点を結ぶネットワーク機能を充実させ、さらなる利便性の向上を促進します。	住民にとって身近な公共交通である町運行バス「う・ら・ら」は、新規路線や乗継に便利なダイヤの検討及びコンパクトなまちの各拠点を結ぶネットワーク機能を充実させ、さらなる利便性の向上を 推進 します。
P43	雨水整備については、雨水管理総合計画（2019年12月策定）に基づき、特に浸水被害のあった緊急度の高い地域から優先的に整備を推進します。	雨水整備については、雨水管理総合計画（ 2020年2月 策定）に基づき、特に浸水被害のあった緊急度の高い地域から優先的に整備を推進します。
P43	整備にあたっては、コンクリート護岸による防災性のみを重視した工法だけではなく、自然環境や、そこに生きる生態系への配慮を行った工法を用いることも視野に入れて検討します。	整備にあたっては、コンクリート護岸による防災性のみを重視した工法だけではなく、自然環境や、そこに生きる生態系への 配慮した 工法を用いることも視野に入れて検討します。
P43	ため池については、降雨時における洪水調整機能を有する防災上、重要な施設となっていますが、老朽化の著しいものも多いため、改修を進めながら保全をすることを基本方針として策定した「東浦町ため池保全計画」に沿って整備改修を図ります。	ため池については、降雨時における洪水調整機能を有する防災上、重要な施設となっていますが、老朽化の著しいものも多いため、改修を進めながら保全 を することを基本方針として策定した「東浦町ため池保全計画」に沿って整備改修を図ります。
P44	維持管理等については、施設の特性や想定される不具合などを踏まえて、施設の管理者自らと専門知識を有した者の役割や実施頻度を整理し、点検（日常・定期・法定等）診断等を実施します。	維持管理等については、施設の特性や想定される不具合などを踏まえて、施設の管理者自らと専門知識を有した者の役割や実施頻度を整理し、点検（日常・定期・法定等） ・ 診断等を実施します。
P44	また、長寿命化は、ライフサイクルコストの縮減を主観点として取り組みますが、建物の劣化状況により、性能・機能的低下が生じる可能性もあるため、人口減少等に伴う利用需要の変化を踏まえながら長寿命化を実施します。	また、長寿命化は、ライフサイクルコストの縮減を主観点として取り組みます。 ただし 、建物の劣化状況により、性能・機能的低下が生じる可能性もあるため、人口減少等に伴う利用需要の変化を踏まえながら 長寿命化を 実施します。
P46	また、町の特産品にはブドウや洋ランなどがあり、施設園芸の促進、高収益化及び6次産業化に努めるとともに新たな作物の導入など、農業による観光振興に活用します。	また、町の特産品にはブドウや洋ランなどがあり、施設園芸の促進、高収益化及び6次産業化に努め る とともに新たな作物の導入など、農業による観光振興に活用します。

パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P46	ただし、太陽光発電設備には、反射光による眩しさや気温上昇や景観への影響など、周辺環境への配慮が必要なることから、その設置にあたっては「東浦町太陽光発電設備の設置に関する指導要綱」に基づき、災害防止とともに、良好な自然環境及び生活環境の保全に努めます。	ただし、太陽光発電設備には、反射光による眩しさや 気温上昇 や景観への影響など、周辺環境への配慮が必要 となります 。その設置にあたっては「東浦町太陽光発電設備の設置に関する指導要綱」に基づき、災害防止とともに、良好な自然環境及び生活環境の保全に努めます。
P49	既成市街地は、幅員の狭い道路により有事の際、緊急車両の通行支障等、防災性などに問題のある状況となっています。	既成市街地は、 幅員の狭い道路により、 有事の際、緊急車両の通行支障等、防災 面 などに問題のある状況となっています。
P49	地震時の避難所となっている建物は非構造部の耐震化を実施します。	地震時の避難所となっている建物は、 非構造部の耐震化を実施 します。
P50	また、震災発生後において、地域との円滑な合意形成、迅速な都市復興を図るため、防災課題の改善について地域住民と協働で検討を進める「事前復興都市計画」の取り組みを推進します。	また、 震災発生後において、地域との円滑な合意形成、迅速な都市復興を図るため、防災課題の改善について地域住民と協働で検討を進める「事前復興都市計画」の取り組みを推進します。
P53 他	(省略)	※地域別構想の住民意識調査（P53・62・71・79・87・95）の「町平均」はすべて「 町全体 」に修正
P58	◎(町)吉田線は、地域を東西に連絡する道路として、通学路における歩行者の安全を確保するために歩道の設置を推進します。	◎ 町道 吉田線は、地域を東西に連絡する道路として、通学路における歩行者の安全を確保するために歩道の設置を推進します。
P60 他	無秩序な市街化抑制による優良農地などの保全	無秩序な市街化 の抑制 による優良農地などの保全 ※全地域のまちづくり方針図（P60・69・77・85・93・101）において修正
P67	◎(都)山ノ手線は、地域を南北に連絡する地区幹線道路として整備を促進します。	◎(都)山ノ手線は、地域を南北に連絡する地区幹線道路として整備を 推進 します。
P69	産業活性化拠点 農地や樹林地などに配慮しつつ、工業地としての操業環境の維持・向上を図ります。	産業活性化拠点 農地や樹林地などに配慮しつつ、工業地としての操業環境の維持・向上 を図ります。

パブリックコメント以降の修正一覧

頁	修正前	修正後
P83	4. 土地利用の方針	4. 土地利用・市街地整備の方針
P103	6-1 住民・事業者等との協働	6-1 住民・事業者等との協働
P103	地域のまちづくり活動としては、これまで6地域ごとにまちづくり勉強会を開催し、中でも緒川新田地区と生路地区では、まちづくり実行委員会を立ち上げて各地域の諸問題の解決に向けて活動を行っていました。本町としては、住民や各種団体と協働して…	地域のまちづくり活動としては、これまで6地域ごとにまちづくり勉強会を開催し、中でも緒川新田地区と生路地区では、まちづくり実行委員会を立ち上げて各地域の諸問題の解決に向けて活動を行って き ました。本町としては、住民や各種団体と協働して…
P103	住 民 ○地域コミュニティの一員としての意識・行政との共通認識 ○都市づくりへの参画・実践 住 民・事業者・行政の協働による都市づくりの推進 事 業 者 ○地域社会の一員としての意識・行政との共通認識 ○都市づくりへの参画・貢献 行 政 ○住民ニーズの把握、情報提供 ○住民・事業者や国・愛知県等の関係機関との連携 ○都市計画の運用 国・愛知県等の関係機関	住 民 ○地域コミュニティの一員としての意識・行政との共通認識 ○都市づくりへの参画・実践 住 民・事業者・行政の協働による都市づくりの推進 事 業 者 ○地域社会の一員としての意識・行政との共通認識 ○都市づくりへの参画・貢献 行 政 ○住民ニーズの把握、情報提供 ○住民・事業者や国・愛知県等の関係機関との連携 ○都市計画の運用 国・愛知県等の関係機関

頁	修正前		修正後	
P107	⑤ 公共施設等の総合管理		⑤ 公共施設等の総合管理	
	関連する都市計画の目標	① 多様な連携による集約型都市構造の充実 ② 誰もが住みたいと思う快適な生活環境の維持・形成 ③ 誰もが使いやすく快適な交通体系の整備	関連する都市計画の目標	① 多様な連携による集約型都市構造の充実 ② 誰もが住みたいと思う快適な生活環境の維持・形成 ③ 誰もが使いやすく快適な交通体系の整備
	内 容	老朽化が進む庁舎、小中学校、保育所等の施設は、基本的に定期的な点検を基に、修繕・更新を行うことで長寿命化を図ります。一部については、提供しているサービスの必要性や代替性、施設の機能、利用実態等などから、統合・廃止などを検討します。 道路、河川、上下水道等のインフラは、大規模な修繕によるコスト増をなるべく防ぐため、定期的な点検をもとに、計画的な修繕・更新を行うことで長寿命化を図ります。	内 容	老朽化が進む庁舎、小中学校、保育所等の施設は、基本的に定期的な点検を基に、修繕・更新を行うことで長寿命化を図ります。一部については、提供しているサービスの必要性や代替性、施設の機能、利用実態等などから、統合・廃止などを検討します。 道路、河川、上下水道等のインフラは、大規模な修繕によるコスト増をなるべく防ぐため、定期的な点検を基に、計画的な修繕・更新を行うことで長寿命化を図ります。
	今後の課題	・東浦町公共施設等総合管理計画の評価及び見直し（5年ごと） ・個別の施設に対する管理計画の策定 ・統廃合及び再配置計画及び合意形成 ・官民連携による計画、整備、運営、維持管理への検討等	今後の課題	・東浦町公共施設等総合管理計画の評価及び見直し（5年ごと） ・個別の施設に対する管理計画の策定 ・統廃合及び再配置計画及び合意形成 ・官民連携による計画、整備、運営、維持管理への検討等

頁	修正前		修正後	
P110	③ 森岡南部及び緒川北部での面的な整備の推進		③ 森岡南部及び緒川北部での面的な整備の推進	
	関連する都市計画の目標	① 多様な連携による集約型都市構造の充実 ② 誰もが住みたいと思う快適な生活環境の維持・形成 ③ 誰もが使いやすく快適な交通体系の整備	関連する都市計画の目標	① 多様な連携による集約型都市構造の充実 ② 誰もが住みたいと思う快適な生活環境の維持・形成 ③ 誰もが使いやすく快適な交通体系の整備
	内 容	(都)森岡中町線・(都)養父森岡線の整備にあわせた面整備を推進します。 駅からの徒歩圏内として利便性の高い地域であり、新たな住宅地を整備することで、市街地の無秩序な拡大を抑制し、集約型都市構造の維持・向上を図ります。また、森岡地域の市街地と緒川地域の市街地の連続性を確保することで、効率的な都市基盤の維持・形成を図ります。	内 容	(都)森岡中町線・(都)養父森岡線の整備の促進と面整備を推進します。 駅からの徒歩圏内として利便性の高い地域であり、新たな住宅地を整備することで、市街地の無秩序な拡大を抑制し、集約型都市構造の維持・向上を図ります。また、森岡地域の市街地と緒川地域の市街地の連続性を確保することで、効率的な都市基盤の維持・形成を図ります。
	今後の課題	・土地区画整理事業や民間開発など整備手法の検討 ・市街地整備に対する関係地権者との合意形成 ・市街化区域への編入や都市施設の整備に対する関係機関との協議・調整 ・液状化等に対する防災対策の実施 ・浸水等に対する防災対策の実施 等	今後の課題	・土地区画整理事業や民間開発など整備手法の検討 ・市街地整備に対する関係地権者との合意形成 ・市街化区域への編入や都市施設の整備に対する関係機関との協議・調整 ・液状化等に対する防災対策の実施 ・浸水等に対する防災対策の実施 ・浸水等に対する防災対策の実施 等